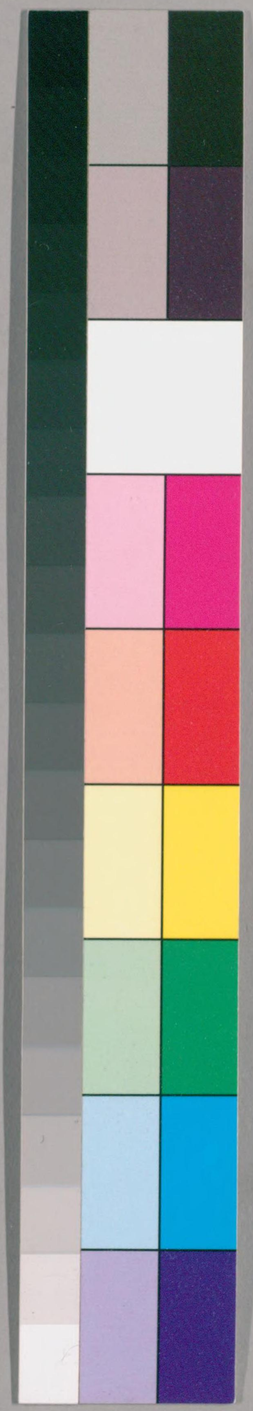
十役之抄 八

歩頭中間頭

848
189

帙

ス



国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

十役之抄之内

徒頭中間頭之

自解

全巻

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

848
189

凡七章

附章十八箇

令二十五箇條辨論之

享保六孟春

伯赴作之

第一

徒頭中間頭

一甲列流徒ニ処中間ハ衆役同格ノ如クなり

衆役多キ者

甲列武田家ニテ歩侍ヲ二十人衆ト云則二十人衆頭ト云ハ徒頭ニ小人頭ト云ハ小人モ中間モ合テ支配スル小人ハ女ナク中間ハ多シ故ニ多キ方ヲ以テ常ニ中間頭ト唱ユルヨシ扨徒頭中間頭ハ同格ニシテ勤ル所目付横目ヲ兼ル支常々陣中共ニ同役ニシテ陣中ニテ六奉行

附テ兼廻シ諸手ヲ工行自身ノ働等ヲナス支軍
鑑所々ニ当心是其本侵ニ付テ大将ニ近仕シ剛勇ノ働
キヲモナス所ニシテ兼侵ニ付テ諸手ヲ兼廻シ兼
侵ノ目付横目ヲ勤ル支ハ別ニ論之ノ故愛ニ畧之然
レトモ本侵ハカリニ付テ幺トキハ其品吹キシ甲列流
本侵ニ付テハ其支配スル処ノ者ハ皆御大将ノ御馬
近ク勤ルユヘ戦場ニ於テ一方ヲ下知シテ我預リ
ノ人数ヲ以テ勤ムヘキ人業ナキノ故ニ目付横目ヲ
兼サセシムル所ニ是士トシテ戦場ニ於テ必ス守
リ勤ルノ働キアルヲ以テ本意トス諸士ヲ初メ

頭ニ随テ勤ムル者ハ其下知ニ依テ進退ヲナス是當然
ナリ物奉行ナル者ハ自身ノ働ヲ止テ我預リノ道
具ヲ不亂戦勝ノ期ニ到ルノトキハ自然ニ自身ノ働
キヲモナスシ又頭武者ハ我預リノ人数ヲ指揮シ
テ迫合ヲ初メ其組下ナル者ニ手柄ヲナサシメ自
然ニハ其身モ組ノ士ト其働キヲナス等ノ支ニテ
各其守ル所其勤ル所アリ此両侵ノ如キハ歩ノ
侍ハ御大将ヲ守護シテ御床机ノ除ニアリ小人中
間モ皆其勤ル所アリテ頭ナル者ノ下知ヲ以テ
勝負ヲナス支無之シ故ニ其頭トシテ勤ル所ナ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

キニヨリ甲列流ハ目付横目ヲ兼シメテ六奉行ニ隨
ヒ或ハ諸手ヲ乗廻リ或ハ自身ノ働ヲナサシムルハ使
番ノ勤ルニ少シ品ノ違ニメルカ如シ其役柄武田家
ニ於テハ使番ヨリハ次ナル者ト見エメリ是目付
横目ヲ兼サセシムルハ位卑フシテ細支ニテ委ノ
聞スヘシトノメメシトヲ如此ノ様子ヲ知テ當時是
等ノ役或ハ是ニ準スルノ役メル人其戦場ニ於テ勤
ヘキ矩ヲ知ヘキ者乎

附り

其位面時江戸の沖徒頭に似たる役威

武功人名并代官役等ま
ての事

甲列ニテモ右ニ云如ク江戸ノ徒頭ニ似テ役位モ早キ
カ然レ共江戸ト品違ヒメルハ武功ノ士ヲ撰テ此役ヲ
シメ則二十人衆頭ハ二十人衆ノ内ヨリ立身シ中間頭
ハ小人ノ内ヨリ立身シメルト見エテ結要本七ノ巻ニ
馬乗御小人十騎ヲモ中間頭ト申候トアレハ小人
ノ内ヨリ武功童ヲ成メルト見エメリ殊ニ同書ニ
二十人衆頭小人頭ハ身代二百貫三百貫取トア
レハヨキ身上ニ但甲列信列辺ノ百貫ノ知行ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

當時四ツナラシノ知行ニ見テ革高三百石ホトニ
アタルトゝ云然レハ二百貫ハ六百石ホトナリ三百貫
ハ九百石ホトシトト見ヘキカ其人品ハ二十人衆頭小人
頭但中間頭トも同意シ共ニ若年ヨリ武辺場數有テ就中戦
勢ノ用ヲモ知ホトノ智覚アルノ士タル意ハ軍鑑ニ
明カシ役柄ヲイヘハ常ニ御大將ニ近仕シ兼役ハ前
ニ云通リ目付横目ヲ兼ルニヨリ役威ハアリト見
エタリ但威勢トゝニハアラス
役儀ノ任ニテ勤方ノ威アル是則大將ヨリ與ヘル所
ノ勢ヒシ近キ意ニテ警ヘテ云ハシ當時賀府ヨ

三十人頭役儀ハ早ク大方徒衆ノ内ヨリ立身シテ然ル
小身トイヘ𪜈役儀ニ付テハ馬ヲ預リ若火事ノ節
或ハ普請ノトキナト組ニアル剛カノ者ヲ下知シテ
勤メ働ク所大キシ常事トイヘ𪜈江戸等ニ於テ
モ歩供ヲナスノ士ハ多シトゝナカラ道ノ遠近善悪
ノ度量等ハ此役ヲ勤ル者ノ胸臆ニ发シ或ハ途中
ニ於テモ勤ル筋ノ意ニ於テ伺フ发アレハ取沢ノ人ヲ
不頼直ニ駕ニ付テ申上ル等ヲ以テ見レハ委キ筋ヲ
不知者ノ見ル所其威勢アルニ似タリ然レ𪜈是ハ役
儀ニ付テノ勤シ甲陽ノ歩頭中間頭モ猶此黨ノ安シ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

様子ノ違ヘル者ト見レハ支消シ其上武士ハ次ノ位
ハ早ク此我働キ勤ル所ノ功顕ハルヽ、支ヲ以テ本意トス
ル故ニ旗本ノ士ヲ以テ先手エ添ラルヽヲモ辞シ難
キ等ノ品アリ爰ノ論ニアラストイヘ共其役儀ノ
様子ヲ委ク知シタメ假ニ譬エテ云所シ然レハ此両
役ハ兼役ノ勤テモ成易ク或ハ目付横目使番等ノ
如キノ我預リノ人数道具ナキ役儀ノ者ヨリ此役
ヲ兼テ勤ルトモ成易カルヘキ支依然ニテ重キ役儀ヨ
リ兼ル支ニハ有ヘカラサルカ

第二

一武田家歩ノ二十人衆ヘ事

信玄公歩行ノ兵百二十人ヲ二十四人宛五組ニ分一組
ニ頭二騎宛十騎シ然レハ百二十人衆ト云ヘキヲ上
略シテ二十人衆ト唱エ来ルトヲ云一組ニ頭二騎ハ兼
役アル故ナルヘシ但シ又考フルニ
支ハ此内四人ハ必ス小頭等ノ品アリメルナルヘシ委
クハ書傳ニナシトイヘ共小及ハ必ス有ヘキ支カ外ヲ
以テ見レハ弓鉄砲ノ足軽ヲ初メ必ス五人ニ一人ノ小及
武者アリ然レハ廿四人ハ小頭ト見レハ残
リ二十人ニテ小頭一人ニ五人宛ノ下知シ五伍ノ法ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

モ叶フ左アレハ則一組ニ六人ノ歩行是ニ小双四人頭武者二騎ト見テ一組二十人ノ数ニ依テ二十人衆ト云ナルヘキカ如此見テモ六人衆ノ者目ニ近キ理アリ五組合テ歩行百人小双合六人ニテ百二十人ニシ皆御大将御馬ノ傍ニ歩ニテ御供ヲナスノ役ニ御大将御馬ニ乗玉ヒテヨリ後ハ歩行ノ士ナラテハ近習ノ兵ナシ故ニ親ニミヲ厚クシテ皆譜代ノ撰ニ其器量勇功ヲアナカチニ不好唯御心易キ筋ノ者ヲスクツテ此組ニ定メラルヽトシ或ハ其頭ノ勤ル所ナレハ歩目付歩横目等ニモ勤ムヘシ又ハ近習ニテ小姓ノ兼役多カルヘキニシ

附リ

当時江戸ノ小従人共御供先別端ニやうくそろ准ずるの新しき事

小従人衆ノ初メハ神君ノ甲冑ニテノ二十人衆ヲ模シテ仰付ラルヽノ初メ早々ニ御書出シヲ誤テ二十人衆ノ二ノ字ヲ其頃文盲ノ節ナレハ草字ノカナニト見誤リ小十人ト唱エ来ル旨云或ハ草字ノカナヽト書テアリシヲ小十人ト見誤リシ旨云シ御大将ノ御馬ノ近所ヲ勤ル二八人品譜代ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

撰ミルトイヘリ御徒衆ノ支モ久シク有タル組ニト
イヘモ大国ヲ得ヨニテヨリハ其似タル者ニテモ次シ列
ヲ替テ小十人等出来ルト見エタリ當時見レハ江戸
ノ御徒衆ハ二十組カ有之餘リニ多テ御馬ノ廻リ
ヲ守護スルトタニハ過タルナルヘシ常々御成等ノ
時ノ辻々ノ堅メ又ハ御道筋ヲ先達テ人拂ナトヲナス
ヲ見レハ如此ノ散役ヲ勤メ御供ニモ御番ニモ不欠
如クスルトキハ二十組モ入支シ然レトモ是ハ御徒多
キニヨリ跡ニ出タル勤メカタナルヘシ足軽等ノナス所
モ似タルヘシ唯御大将ノ御馬ノ前後ヲ歩供シテ
護スルトナラハ百人ノ内外ニ過ヘカラサルカ甲州流
儒ノ立所ヲ論シテ二十人衆五組ノ制法能心ヲ付
ヘシ少シ多少ハ有ヘキ支シ故ニ論之其余諸国ニ
江戸ヲ摸シテ是等ノ様子ヨリ賀府ニ於テモ
利常公ノ小杖持ト号シ召仕ハルヽヨリ或ハ小扶持
御馬ノ廻リニ歩供ヲナサシメラルヽ御手廻ナトヽ云シ
ノ内ヨリ少知ヲ給リテ勤ル者ハ御取立
シ其中ヨリ段々壮年ニ及ヒ壮年過ルヲハ
ニテ召仕ハルヽモアリ又ハ外ノ勤メニ改メラルヽモ有テ
唯年若ノ達者ヲ揃エテ歩供ニハ召仕ハルトシ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

是皆御譜代ノ士ノ子弟タル
ヲ以若キ内ハ支怪ノ御馬廻リニ歩供ヲナサシメラ
ル、支其護リ堅キノ専務メル（キヲ猶又射手異爪
ノ士ノ年若ナル者モ歩供ヲナスハ弓鉄炮ノ業アルノ士ニ
テ護リトナル支堅キシ是等モ年老タルハ其役ヲ免
ヘシ壮老ノ年ニ及テノ立身ハ其人々ノ智愚ニヨルト
イヘ氏年若キ譜代ノ士ノ子弟ノ常ニ無足人タル（キ
ヨリハ次技持ニテモ勤ル所アレハ奉公ニ進ムノ機有
テ其抑揚ニ付テ自ワカラ其薫ノ風俗ヲモ改ムルノ
端トナル支多カリシトシ當時ニ到テ新番組トテ其
様子次シ違ヒテ譜代ノ士ノ子弟等年若ナル者勤
ル江戸ノ新御番トハ同名ニテ品ハ違メルト雖品々
ヲ以テ様子ヲ考フルニ江戸ノ小従人衆ハ賀府ノ新
番組ヨリハ怪ノ見エシ賀府ノ御徒ハ江戸ニテノ
御徒組ヨリハ品ヨリ見エシ江戸ノ御徒ハ足怪ノ次
シ様子ヨキモノ、様ニ見エルシ御徒目付トナニ成テ
ハ其品宜ノ又別格トナルシ諸家トイヘ共色々如
此ノ似タル者アリ長刀萩ノモ利家ニハ怪キ技持

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

方取者ヲ無給ナトいふ或ハ其品少シ下ナルヲハ徒
遍ナトいふトし皆此類ニ甲列流ノ二十人衆ト云ノ
少シ高下ノ品ニテ大将ニ近ク歩供ヲナス又ハ似タ
ル又ハ或ハ天文永禄ノ頃関東ノ諸家ニテ歩立ノ
若キ黨ヲ　神君ニテハ走り衆ト云北條家ニテハ手
服衆ト云上杉家ニテ身脇衆ト云武田家ニテハ二十
人衆ト云者皆名目高下ハ少シノ違ニテ　御大将ノ
馬ノ前後ヲ供シメル者ノ又ヲ云ト　其名目様子
ハ少シ宛皆ル毛畢竟此黨ナキ又ハアルヘカラス歩
若黨ト云本意ヲ　字義ニ依テモ知ヘシ必ストノ賤
シキ者ノ又ニアラス

其節於所猪股ヲ等ハ
へき哉

甲列流二十人衆ノ勤ル所ハ行列備立ニテ御大将ノ
御馬所御床机ノ所ノ前後左右ヲ勤ル心シ陳取ニ
於テハ本陣構ノ外四ツノ角ニ樂堂ヲ立テ張番
ヲナスヘシ其外六奉行ニ隨テ毎日ノ日暮ニ篝炭
鳴テヨリハ其夜ヨリノ相言ヲ六奉行ノ役所ヨリ
請取テ陣中ヲ觸ルナリ或ハ小人ノ役トシテナス
又ナル毛様子ニヨリ貝太鼓ノ役人モ歩行ノ衆ヨリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

勤ル其外御大将ノ御手廻リノ用器ヲ支配スル等ノ支多カルヘキ此様子ヲ受テ近習ノ軽キ用支ハ常支トイヘ𪜈此内ヨリ勤ル支アルヘキシ治国ニテモ此風ヲ受テ當時諸国トモニ此黨ノ類ノ内定役兼役當座役等ヲ勤ルシ江戸ノ御徒衆モ前ニモ云通リ御番ヲ勤メ或ハ御成ノトキノ御供ヲ勤メ或ハ御行列ノ先ニ立テ辻々其通節ノ人ヲ拂フ支業ハ其頭ト𪜈ニ隨テ一組充当テ勤之此常支ノ様子ハ古代ノ大舎人ノ如キカ又 家光公ノ御代或時御鷹野ニ御出ノ節水練ノ入支アリ

レニ御徒ノ内ニ水練ノ達者アリテ御用ニ立レヨリ以来向後徒ノ者ナトハ水練ヲモ心懸テ然ルヘシトノ上意アリテヨリ當時ハ必スト御徒衆ハ水練ノ修行スルトヤ傳ヲ或小家ノ郡主等ノ家中ノ徒組ノ内ニハ忍ノ兼或ハ諸ノ技術ヲモ修シ覚エタル者ヲモ召置トイヘリ是等ノ品ヲ考フヘシ前ニモ云所ノ利常公ノ若キ輩ヲ駈ク勤仕サセシメ玉フノ深意ハ又一統ノ御徒トヤノ心ニアラス若キ輩ナレハ武藝ヲ試ミ練磨シ或ハ岩乗ノ第一ニ山野ニ猟漁シテ身ヲ堅クシ或ハ當座役ニカケテ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

其人ノ才覚ヲ試ミラルヽ等ハ真實譜代ノ士ノ子第トシテ往々ニハ御用ニ立ヘキカトノ試ミナレハ又様子違フ所アルヘシ故ニ此等ノ黨ハ又人數モ不定ニシテ頭武者トイヘ共不定唯近習ノ及タル人ノ支配ニ依テ勤ルノ味ニナレハ此境ヲ以テ分別スヘキシ

徒の兵立乃事

甲冑流ニ論スル所ハ歩立テハカリ行者ハ童キ具足ヲ着スル支ハ叶フヘカラス牛ノ草具足ヲ用ユヘシトアリ然レ共是ハ足軽長柄持等ノ外ニ具足持トテモ無之軽キ品ノ者ニテ出陣ヨリ終リ迄着詰ニスルノ類ニノ支ナルヘシ或ハ諸士ノ若黨歩ノ者馬捕鑓持ノ類ニ具足ヲ着スルナレハ必ス草具足ノ軽カヽキ事ヲ着込ノ軽キニ非スシテハツヽキカヽキ事叶ヒ立ノ故シ具足ヲサヘ着スレハ必ス歩武者ト唱ル支ト結要本ハ之巻ニ出セリ然ルニ徒ノ兵ハ必ト鉄具足ハ不着ト云ニモ有ヘカラス江戸ノ御徒衆ハ朱具足ニ桃像ノ兜ヲ着シ猩々皮ノ陣羽織ニ金ノ軍配團扇ノ紋ヲ背ニ黒ノ組々ノ相印ヲ付ルトシテ長途行列ノトキハ具足ヲ脱テ持スルノ定モ有ヘシ足軽以下ハ大方長

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

途モ著詰ナルヘキナレハ半ノ葦具足著到ノ數初メノ如クニテ減支ナシト末書下巻下五ニ出セリ然レモ徒ノ兵トテモ重キ具足ハ著ニクカルヘシ是等ノ用ヲ計ツテ其節ヲ知ヘキ者乎當時江戸ノ小従人衆ハ小サキ折掛(ヲリカケ)四方ノ指物ヲ差トナリ然レハ馬上ニテ出ルカ其内ニ歩立テ御供ヲナス者モ代ル々々有ヘシ其トキハ小サキ指物ナラハ捨別シ大キニテハ歩供ハ成カタカルヘキシ江戸ニテモ御徒迄ハ御貸具足ニテ對シ小従人ハ人々ノ用意ノ具足ト見エタリ如此ノ理ヲ知テ国ヨリ歩供ヲ勤ムヘキ黨ノ出立指物羽織ノ様子或ハ對ノ出立或ハ自分ノ出立等ノ支詮議シテ其宜ヲナスヘキ支カ武田家ニテ二十人衆ハ一幅三尺ノ赤根ノ吹貫ノ指物ヲ差ト新品寒到来ニ出タリ或ハ賀府ニテモ大坂陣ノトキ毋衣(ホロカチ)徒ノ名アリテ何モ百石百五十石ハカリニテノ身上アリ歩ノ内ニテ少シ其品ヨキトキヽ歩立テ小サキ毋衣ヲカクルヒカ量ナキ者ハ叶フヘカラス如此ノ類ニ上方辺ノ余風ニテ唯將ノ餝リノタメヽ猶諸家ニ此類ニ多カルヘシ此等ヲ知テ畢竟ヲ知ヘシ當時ハ治世ニシテ、メトヘハ敷

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

具足ヲ拵ルニ細工人支ヲ怪クセントシテ皆小サキ形ニ作ル大キナル男ノ身ニ應セス且鉄具足ヲリトテ古キ金物等ヲ取付砂ニテ地ヲナシテ重クスルノ類ハ牛ノ草具足ヨリハ劣ル支ニ且又数具足ハ不具ニシテ用ユヘキ様ナシ愛ニ近キヲ以テタトヘテ云ニ火事羽織アレハ近年胸當頸巾ノ諸具アリ年々其結講ヲ尽シ且手廻シ宜ク支怪キヲ要トスル支衆人ノ常ニ知所ニシテ大人小人ノ身ニ應スルノ度量宜ニ叶フ兵具モ此通リニテ試ミ知トキハ必ス迷フヘカラス更ニ知ヘシ兵器ノ用常ニ収蔵シテ不試ノ具急支ニ用難キ支ハ既ニ関ケ原ノ役アルノ年ハ慶長五年ニシテ然ルニ大坂ノ役ノ起ルハ慶長十九年ニテ其間タ纔カニ大数ヲ以テ十四五年ニ然レトモハヤ数道具等ハ武庫ニ朽シ仕セテ損シテ用ルニ不足賀府ノ長氏ノ歩ノ者縮通ノ羽織ヲ着セシムルトキハ如此支サヱアルヲ寛永十四年ノ嶋原ノ一揆起ルトキハ大坂太平ノ後二十四五年ニテ其急ル所猶更多ク西國衆ノ取込メル支多カリシトキニ弥諸国急ルトイヘトモ西国中国ノ衆ハ船手ヲ守

リアリ且異国襲来ヲ防ク ノ備不怠シテ武具
ヲ試ミ改ムルノ流例タリトゝ云ゝ此守リサヘ薄キ国
家ハ弥怠ルニ到ル故ニ対ノ役具足ヲ着スル組
支配ノ者ヲ持タルノ頭ハ油断スヘカラサル支カ
支長シトイヘ共其用意心得度量ヲ知テナサ
スハ實ニ底徹シカタカラン支ナキニ譲リテ怠ル
ハ武ノ本意ナキ者シ

譜代筋目ヲ撰ミ或ハ器量ヲ撰ム事
前ニ述ル通リ大将ニ近ク勤ル者ハ譜代ノ親キヲ
以テスヘキシ然レ共當時江戸等ニテ郡主等ノ
年若キ方々ナトハ唯其徒ノ器量ヲ揃ヘテ先供
トシ人ノ外見ハカリヲ專ラトスルトキハ筋目生得
ヲ正スヘキ様ナシ故ニ新参渡リ者ヲ不構モアリ
其本意ニ遠キカ筋目ト器量ト両様ノ案鑒シ
テハ支ノ調フヘキ様ナシ故ニ其本意ヲ知テナスヘ
キ支シ又大国ノ主等ニテ自然ニ多キ徒ノ内ニ才
一ハ筋目ヲモシテ召抱ヘ其中ヨリ器量スクヤカナ
若キ達者ナルヲ揃ヘテ常支ノ供役ニ召連ル
等ノ支ハ格別シ
徒ニ準ヘるの役人 法ヲ考ル 古法

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

を知ること歯附を法を知へき事

江戸にても其名目は品々にかゝるといへども
下にて足軽ヨリは重ノ諸士ヨリは軽き者皆徒ノ黨
と知へき哉カタトへは賀在にてハ御箏用者御
料理人御細工人或は御鷹匠等は皆少し丸ノ高
下はあり尤畢竟似タル位ノ黨し然し尤其勤し所
に高下あり差別あり其分は其役々々ノ專務トス
し哉ヲ以て知へきなし尤日本にて中古以来武家に
於て大概主将士ノ三段有て其下に徒ノ一列足軽ノ
一列猶小者中間ノ一列此三等有て戦場に到し
ニ馬上にて出陣スル程ノ者は諸士ノ等し行列等
にても必ストし騎兵ナラサルは徒ノ黨し此品ヲ知て
其頭タル者ノ心得有へき哉カ諸国ノ諸家何様ノ
名目有トも此等ノ外に漏し事なきし

侍大将ノ自分の歩若黨等ノ員数
高ノ小多とりまぜ何程ノ割合ニ
右にて所ノ走ヲ以て知へシ
鉄炮長柄旗ノ諸器ヲ揃へて持程ノ将トイへ尤
歩若黨ハ多き哉アタハスト知へし未書下巻下四
にて五十騎一備ノ積にも侍大将ノ歩若黨ハ三十人

トアリ此内ニテ貝太鼓ノ役人并ニ侍大将手道具
以下近習ノ諸用ヲ弁シ或ハ忍水練等ノ技術ヲナ
ス者等モ有ヘキ故ニ此格ニ見ルトキハ馬上二十騎三
十騎侍ノ将ハ猶更歩若黨ノ数スクナカルヘシ凡ソ
軍ニ向フニ侍ヲ一騎モ多ク馬上ニテ召連ヲ鉄炮
長柄旗各其員ヲ揃エ出スニ其外ニ馬ノ廻リニ
無用ノ歩ノ者ヲ召連ヘキノ余慶ナレタトヘハ
當時ノ治世ニシテ五七千石ノ禄ヲ受ル身上ノ者
常ニ中小姓ナトヽ号シテ召仕フノ扶持切米取
着モ何ソ開敷トキハ一足一本ニテ馬ハ厂口鑓
持ト上下三人ノ一騎トシテ連ルトキハ備ノ實ハ
近シ或ハ常ニ怪キ奉公人ノ先供ヲ勤メサスンノ類
ノ者モ開敷トキハ弓鉄炮ノ器ニテモ持スンノ心持
アレハ則足怪ノ心持ニアルヘキ支シ然レハ馬ノ廻リ
ニ召連ヘキ者ハ此身代格合ニテハ少シモ譜代ノ筋
目ヲ正シ或ハ若衆達者ノ心持ヲ以ノ連ルノ若キ
者五六人ノ心當アラハ其外十人余モ彼是ノ小
役共ニ十五六人ニテハ叓済ヘキカ無用ノ歩若黨
ノ渡リ奉公人ノ心底ヲモ不知者ノ多キハ無用
タル叓カ二三千石ノ身代ニテハ猶更ニ千石二千

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

石ノ侍等ハ猶以身代アメリノ役筒役器等ヲ
持セテ出ス足軽ノ心當用ニ立ヘキヲ出ス忠節ニ
外ニ自分ノ騎馬ヲ出スヲ心掛トス（シ）故ニ馬ノ廻リ
ニハ達者ノ歩若黨ヲ三四人召連ルノ心當メル
ヘシ其ヨリ以下ノ小身ニ三百石ヲ取ノ侍トイヘ（ド）モ
心ヲモ知メル若黨ノ一両人モ召連ル心掛ハ專
一ナリ大中小身ニ依テ違フトイヘ（ド）モ無用ノ人數
ヲ連ルハカリニテハナシ故ニ當時ノ江戸国方共ニ
手振ノ渡リ奉公ヲナス先供ノ歩ノ者ヲ置見分
ハカリヲ思フハ治世久シキノ誤リ（シ）故ニ其身代
相應ノ出陣ノ積リヲ心當シテノ上ニメトヘハ日頃ハ
先供ノ手振メリ（ド）モ開敷トキハ弓鉄炮ノ業ナリ
（ド）モ勤ムヘキ心底ヲ知テ召仕フハ可ナランカ或ハ五三
万石ノ家中等ニテ徒ノ黨譜代モ多ク組ヲ分頭
ヲ定ムルモ有ヘキ（シ）是又其程ヲ計テナスヘキ（シ）歟
ハ前ニ委ク述ル通リ細工分（カ）等用方等ニ到ル迄
モ一ツニ合セテ皆歩ノ黨ナル所ヲ知テ心定メヲ
ナサンハ理ニ於テ不遠唯何ノ心ヨセモナクテ殊ニ
三万石二万石等ノ家中ニ徒ノ黨ノ多キハ無
用ナランカ只備ノ實ハ騎馬ノ兵ト足軽ノ達者

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ナルニアリ歩ノ黨ハ大備ハ前ニ論スルカ如シ小備
以下ハ我馬ノ左右ヲ守ル者ノ心易キ者ヲ以テ
テヨキ支シ委ク知シメメニ是ヲ出ス

徒の黨 立方の事

戦国ニテハ各似合敷働ヲナシテ其功顕ル立身ノ
ナス支多シ前ニモ云通リ甲列ニテモ則二十人衆ノ
内ヨリ其頭ヒナルト見エタリ近ク賀府ニテモ徒
ノ黨ヨリ立身シタルノ侍多キ支シ江戸等ニテ
モ御徒ノ内ヨリ御徒目付ト成又支ヨリ御代官
或ハ外ノ役儀ニモ立身スルシ賀府ニテモ御徒
ヨリ小頭ニ成又外ノ役ニ轉仕シテ立身ノ士多シ他
家ニハ猶更多キ支シ此黨ト云ヒ必ス戦国治国ヒ
ニ身ヲ立ルナレハ狂キ身ノ上トテ漫リニ思ヒ捨ヘカ
ラスト示シ教ユヘキ支其頭タル者ノ専務ナルヘ
キ乎此所ニ似サル支トイヘヒモ一已ノ狂キ身トイヘヒモ
志シ立タル者ノ立身スルノ證ヲイヘハ賀府ニテ佐久
間三左衛門所ニ浪人来リ一命ヲツナク支ヲヒテ
子細アツテ三左衛門召仕ヒメリ此者能奉公スレヒモ
其節ノ支ナレハ三左衛門千二百石ノ身代ニテモ
譜代ノ家来モ有之取立召仕フヘキ筈慶ナクヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

山田八右衛門ニ此奉公人ヲ頼ミケリ八右衛門四千石
ノ身上ニテモ是又譜代ノ者有テ漸ノ二百石ヲ
与フ八右衛門故有テ御暇申上金沢ヲ立退ノト
キ横山々々城守ニ此士ヲ頼ミテ残ス八右衛門カ落目
ヲ見届ケトカヲ無理ニ留メテ横山家ニアリ度々
ノ戦功等有テ後七百石トカ成竹田金右衛門トカ
名高キ士ハ是ヲ聞テ金右衛門子ハ市三郎ニテ
利常公ニ近仕シテ身ヲ立子孫ヲ昌フ所ヲ然
レハ金右衛門其初メ零落セシ頃ヲ知ヘシ一已ノ
歩若黨ニ等シ立身ノ後ヲ見レハ唯志シ一ツ

第三

一武田家小人中間差別の事

結要本八之巻ニ御小人ハ少ナノ御中間ハ多トアリ其志トカヲモノ外ニアラス士一途ノ本意ヲ知シタメ委長ク書之

小人ハ其品二十人衆ニ似テ少シ様子替リタル者ト知ヘシ二十五六人ナラテナキト見エタリ馬乗御小人ヲ中間頭トカヲトアレハ則小人ノ内ヨリ小人頭トナル是ヲ馬乗御小人トカヲナルヘシ是ニテ小人ノ馬ニ不乗且ヶ人衆ニサノミ不替ヲ知ヘシ前

ニモ云通リ小人中間合テ支配スル故多キ方エ付テ
中間頭ト云目付横目ヲ兼ルシ又外ニ中間頭ト
テ廿貫三十貫ノ知行ニテ六人アリタリト 諸要本
七ノ巻ニ出ル是ハ則中間ヲ支配スル頭ニテ歩立ノ
兵メリ前ニ云知行積リヲ以テ見レハ二十貫ハ四
ナラシノ知行六十石三十貫ハ同ク九十石ホトノ鈞合
ニテ地方知行ノ草高ト見テ不遠シタトヘハ賀府
ニテノ御小人頭ト云ノ類ニハ近カルヘキカ扨甲陽ノ
中間ハ其数多ク三百人ハカリモ有タリト見エ
タリ軍鑑集書ニ諸奉公人ノ過銭出スヲ集

メテ中間或ハ新衆ノ給分ニスル陣中ニテハ小人中
間御道具衆ニ給ル此定メ高坂弾正ナシタリトア
リ但過銭ヲ取中間ハ軽キ中間ノ支ナルヘシ

附リ

小人勤ル而年尚附小人ト云ハ主不遠ク
所ニテ主用ヲ聞ヨリ別ナリ
甲列ニ於テハ御小人ハ諸支走リ廻リテ近所
ノ諸器ヲ裁許シ見太鼓ノ役人ヲ勤テ二十人衆
トサノミ替ル支ナク人数モ少ナキシ其外走廻リ
ヨキ者ハ中間頭ト成或ハ小人頭トモナルト見エタ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

り勤メ様ノ品ノ違ニタルニテ二十人衆ト云御小
人ト云ト見エタリ近習ノ諸用ヲ達スルニヨリ
最譜代ヲ撰ムト云然ルニ當時江戸ノ御小人
ハ其品徒ノ黨ニモアラス又同心足軽ノ品ニモアラ
スシテ又別シ其内ヨリ御小人目付ナト云アリテ
ニテノ御中間ノ内ニ御道具衆トアルニ近キ欤其
常々ハ御本丸御玄関等ヲ勤ルシ賀府等
差別ヲ知ヘキシ賀府ニテ本座小者ナト云ノ類
ニテモ御小人ノ品其ニ似タル者多シ甲列武田家
ニ武田家ノ小人トハ別シ

中間の内より高下段々有之
甲列流中間ハ萬ヲ御道具ヲ持ノ役御長柄御
持鑓御具足櫃御鞭等道具ヲ持者ハ三十
御團扇御采幣等ノ御手道具ヲ持ノ諸器ヲ持其内
余人是又譜代ヲ撰ミ野心ノ疑無之者ヲ其品ヲ
晉テ御馬ノ傍ニ召連ル是ヲ御道具衆ト唱ヱ
小身ノ小頭六人アリト云二十貫三十貫ノ中間
頭ト云者ハ是シ其外厩方ニカヽル者草履取等
ノ類ニ猶此品ノ如ノナルヘシ中間ト云者古エノ隼人
或駕輿丁等ノ類ニ是等ニ準スルカ

中間不足のときハよのまし
衆之年に妻附中間さ
多き事

甲列流百姓ノ人夫ヲ連出ル
撰テ慶長長持等諸器ヲ持シメ備ヨキ者ハ中
間衆ノ次ニ加エ用ルトシ備又當時江戸ニテモ
中間ニ類スル者多シ御小人同類モアリ御駕籠
ノ衆同類アリ御中間同類アリ或ハ畔鍬衆同類
アリ御小間遣同類アリ猶此等ノ類ニ多ク其
頭トス者モ小禄ニテ御徒ノ黨ナル者シ

如此ノ類ニ諸家ニアリ賀府ニテモ御供廻リヲ勤
ルヲ當時ハ御手廻トスシ或ハ御路地者或ハ御挑
灯ノ者或ハ小者或ハ御馬ノ御中間等其品段々
有テ各夫々ノ頭アリ猶諸國ヲ尋子ハ其黨次シノ
差別際限有ヘカラス皆一統ニ中間小者ノ高下ア
リトモ唯一種ノ品シトト見ヘシ

中間譜代新参の事

甲列流ハ譜代ヲ用ニ中ニモ御道具衆ノ如キハ其
人柄ヲモ撰ムトシ當時モ諸国ノ諸家ニ於テ伊
達家嶋津家ノ如キハ手廻ノ軽キ者器量第二

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ミシテ第一ハ譜代ノ用ユトゝゝ當時江戸ニテ渡
リ奉公ヲナス者ハ其心知ヲ多シ殊更其給分次々
ノ多少ヲ論ズル等ノ品アリ右ニゝ嶋津家等ニテ
草履取道具持ナトハ別シテ身近キトヲ譜代ヲ
撰ミ知行ヲモ給ルトゝゝ甲州ニ於テ中間衆ノ欠ルト
キハ新衆ノ内ヨリ撰テ入ルトゝゝ是治国ニテサヘ吟
味スル支ナレハ戦国ニテハ一入新参者ノ大将ノ御身
近ク气遣スヘキ支ゝ
侍大将等の自分の中間余り
小者とも召連候事を禁ず
右ニゝ所ノ如シトイヘ𪜈侍大将等ノ自分ノ中間余リ
多キ支ハ有ヘカラス末書下巻下四ニゝノ五十騎一
備ノ積ニモ侍大将ノ中間悴者五十人トノ積りし
是其手廻リノ徒者ゝ歩若黨ノ支ヲ論スルカ
如シ兎ニ角ニ節ハ新参者ハ用ニ立ヘカラス故ニ其程
ヲ計ヲテ度量有ヘキ支ゝ小身トイヘ𪜈猶此心
得アル支ゝ故ニ士農不相分ルトキハ則百姓ヲ連ゝ
今治世久シク士農相分ルヽトゝゝ𪜈百姓人夫ヲ不連
トゝゝ支ナシ第々其心得有テ心易ク其心底ヲモ
知タル者ヲ召連ルノ了簡アラハ心掛メルヘキカ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

百年ノ太平ニ諸国猶更下々奉公人ノ譜代沢男ニ薄クナルヲ考ヘテ知ヘキ事ニ候
中間とりわけ立身の事
其心懸沢男ニ其功顕ルヽトキハ身ヲ立ルコトモ戦国ニハ多シ 末書下巻下四ニ板垣小者自身草履ヲ取者ナレ共其心奇麗ニ候ヘハ十六歳ヨリ武辺ヲ仕初テ今曲渕庄左衛門トテ山賊三帝兵衛同心ノ内ニ四五人ノ走廻リ覚ヘノ武士ト成トアリ曲渕カ支ハ軍鑑全部ノ内所ニアリ当時其子孫江戸ニ多ク繁栄メリ爰ヲ以テ知ヘシ治国トイヘ共怪キ者ヨリ立身ヲ名ヲ得ル者モ多シ故ニタトヒ其身ハ如何様ニモアレ武家ニ有テハ其心奇麗ニ嗜ムトキハ必ス立身スル支ナレハ慎テ怠ルヘカラスト云聞スヘキ支カ

第四

一戦ニ治ミれる大将の沖ヲ近くを為るものハ死き者とも其代ヲ取更ニ代ヲ取ヘきよ物るの事

当時江戸ノ渡リ奉公ヲナス者モ譜代ト紛シテ其身ヲ委スルトキハ却テ律義ニシテ能奉公ヲナス

者モアリトイヘ共ハ稀ナル事ナル
神君ノ御道具持御単履取皆知行ヲ下サレ
常々御念頃ニ上意ユヘ追膝ヲ遂則日光ノ足洗(アシアラヒ)
ノ神ト云ハ是ヨリイヘリ又加藤肥後守清正モ
道具持ニハ知行ヲクレ念頃ニ仕ヒ玉フトシ又
秀忠公ノ御乳母後ニハ大ハ殿トテ年ヨラルレハ
居ラレシカ不断ノ慰ニハ大半切ニ食ヲ多クシタヽ
メテ　秀忠公ノ御駕篭ノ者ヲ始メ御供廻リ
ノ若キ者ヲ集メ自身ニ是ヲ盛テ喰セラル事
度々シ或時本多佐渡守殿大ハ殿ノ所ヘ見廻
申サルヽニ右ノ通ノナルニヨリ佐渡守殿申サルヽハ
是ハ自身何タル事ヲナサルヽトアレハ其トキ大ハ
殿申サルヽハ弥八殿(佐渡守ノ名ヽ)昔ノ事ヲ忘ルヽナルヽ
ヤトテノ色々申サルヽ事アリテノ後ニ此若キ衆皆
将軍様ノ御身近キトテハ是程近ク御奉公ス
ル者ハナシ此衆ヲ念頃ニスルハ則　将軍様ヲ
大切ニ思フユヘト申サレシト云傳フ是面白キ事
シ然レハ治国トイヘ御大将ノ御身ニ近ク着
ハ狂キ者トイフ共大切ノ事ヲ知
テ大事ニ思フヘシ又上ヨリハ念頃ニシテ恨ミヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

不倉様ニアルヘキ支カ此境ヲ知テ怪キ者ヲアテカヒノ程ヲ分別シテ其頭タル者ハ了簡有ヘキ

附り

備行営堵定制乃至ハ大将の傍にありてハ侍代を用ひやすも戦闘の変ニ及ヘク備員を持てハ又格別の事

陣屋ニテ小口ノ番ヲ勤メ備ニテハ床机ノ近辺ニ具器ヲ持テ列シ行列ニテモ御馬ノ口ヲ取御道具ヲ持等皆其御大将ノ御身近クニアルユヘ譜代ノ野忍ナキ者ヲ撰テナサシムルハ是シ然レ共戦ニ変シテ大将ヲ守護シ敵ヲ防クノ節必ス其者共ヲ使ヒ又侍共ヲ使ヒ防クトキニハ非ス其トキハ又格別ノ事

有テ或ハ河中嶋合戦ノトキ二十人衆乃中間乃士御持鑓ヲ取テ信玄公ヲ守護スルカ如クナレハ又格別ノ変シ只戦闘毎ニ治世トイフ共大将ノ御身近クヲ勤ル者ハ常々城中ノ番所変ナレハ譜代ヲ以テスルシ或ハ半ヲ守リテ非常ヲ改ルノ番人ハ軽キ者ホト猶其人ヲ吟味スヘキ変シ何様ノ心ヲ狭ンモ知カタ

キトゝ云テハ譜代新参共ニ同シ文ナレ𪜈怪キ者ハ
譜代ノ筋目ヲ撰ミ野心ナキ人柄ヲ改メ近仕
ノ親疎ヲ立ルトゝノ間ニ真実ノ顕ハレ、品アリ
是ヲ知テ用ルノ頭武者メラハ譜代新参共ニ
其者ノ實ヲ知テ推挙スヘキ者手

第五

一徒の頭畢竟心得の事

甲州流ノ赴キヲ以テ見レハ二十人衆ノ内ヨリ武
功ヲ撰ミ其頭トナリ勤ル所ノ多キ文軍鑑全
部所々ニアリ兼役目付ノ勤ル所ハ猶多シ本役

ヲ以テ云トキハ合戦之巻ニ之上ニ天文十三年六月
廿八日ニ謙信公ニ組シタル信州先方四人成敗仰付ラ
ルヽトキ樂岩寺ヲ飯富三郎兵衛内ヨリ廣瀬郷
左衛門ニ依ヲ井利左衛門内井上文左衛門ニ布下ラ
春日弾正忠飯嶋長左衛門ニ和田ヲ廿人衆頭三沢
四郎兵衛ニ仰借ヲ致セト仰出サルヽトアリ是ハ二十
人衆頭ノ文シ又勝頼公御代ニ孕石忠弥トゝ剛
ノ者甲府尊躰寺ニ籠リタルヲ御成敗ノトキ
耳利衆ニ歩ノ廿人衆ヲ指添ラルル合テ二三十人
程手負死人有ハ孕石大剛ノ武士ヲ安シノ文ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

テ御成敗ニヘシトアル然レハ廿人衆モ如此ノ支ニ働アリト見エタリ其上御大将御馬ニ乗玉ヒテ後ハ歩ノ若黨ヨリ外御馬ノ廻リニナケレハ一入念ヲ入御目利ヲ以テ仰付ラルヘトアリ則廿人衆ハ目付ノ役トシテ走廻リ諸方エ御使ニ行其内先手エ御使ニ行テハ似合敷手ヲフサキ或ハ仕物等ヲナシテ手柄ヲ顕ス支五六度モ重リ武辺ノ手柄七八度モアレハ知行ヲ下サレ馬ニ乗二十人衆頭トシテ歩若黨十人衆頭二人廿四人ノ組ト合セテ廿六人充一番ニシテ五番ノ積リニ代テ一日一夜宛常々番役ヲモ勤ルトゝ如此ノ様子ヲ知テ當時治国トゝ此心ヲ離サス御大将ノ近クニ勤ルナレハ狂キ品トテモ筋目ヲ撰ミ人情ヲ見其働キヲ考テ正邪ヲ糺スヘキ支シ徒ノ頭トナリテ外ニ兼役アリ此外ノ役ヨリ徒頭ヲ兼ルカ徒ノ支配ヲナス此支ハ一ツニテ徒ノ心ヲ知或ハ行路ヲ見テ其真實ヲ察シ或ハ其勤メシムル所ヲ分別スヘキ支シ然レハ甲列流ハ役伐狂トイヘ此武功アリ兼役アリ當時江戸ノ御徒頭ノ如キハ只其役ハカリニシテ勤ル所薄キ

ニ似タリ其境ヲ知テ武功アルヘキ支シ故ニ考ル所ヲアラハス而已武田家ノ二十人衆頭十騎共ニ天正十年七月　神君ニ被召出平岩七之助同心ニ御預ケト新品暑到来ニ出タリ

附リ

徒よ扨るの輩を高下にするに歩立ニ供するの制心ねの事

大坂御陣ノトキ賀府ニテモ御小姓組ノ内ヨリ若キ士ハ代々御馬ノ廻リヲ歩供モナシタリト云傳フ是モ様子ニヨリナキ支アルヘカラス故ニ

利常公御手廻ノ士或ハ小扶持ノ士ヲ置ル、支前ニ云カ如シ江戸トイヘ近代ニ到テ御廊下番桐ノ間御番等ノ軽キ御心易キ組モ出来ルノ内ヨリ歩供モ勤ルノ制タルカ然レ共前ニ云譜代ノ人品トヲ撰ム意ヲ本意トスヘキカ故ニ恨ナキ者ヲ以テスヘキ支ハ心然シ天正十年六月二日ニ　利長公江州安土ノ御難儀ノトキモ御譜代者ナラテ御馬ノ供ハセサリシトシ前ニモ云賀府ノ小扶持或ハ新番等ノ若ク健カナル諸士ノ子弟ヲ念頃ニ召仕ヒヲフモ其一理ニ叶フヘキ支カルヘシ　末書

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

下巻下九ニアル赴キモ御大将ノ御身近ノニハ
若クスクヤカナル者ハ召仕ハスシテ不叶サレモ初メ
切米ニテ軽ノ仕ヒ衣服其外見苦シカラス様金
銀ヲクレテ念頃ニシテ後ニヨキ者カ悪キ者カヲ
見ワケテ取立知行ヲモクルヘトアリ專ラ馬ノ
廻リノ供スルノ士等此品アリテ其内親ミヲ第
一ニシテ其人柄ノ真實ヲ考アテ御馬ノ近所ヲ
勤メサスヘキ支ナルヘシ如此戦国ノ余風ヲ以テ治
国トイヘ氏御大将ノ御駕近クノ勤メ或ハ御殿ノ
番等ヲ勤ルニモ恨ミナキ筋ヲ撰ム支專一ナ

ルヘキ事カ

第六

一中間頭畢竟心得の事

甲列流ノ趣キハ前ニモ委ク述ル通リ二十人衆頭ト
様子余リ替ル支ナク横目役ヲ兼ルナリ其勤ル
所ハ別ニシテ中間頭ハカリニテ勤ル所モ多キニ其
様子廿人衆頭ニ替ル支ナシ軍鑑ノ所々ニアルヲ以
テ知ヘシ備定之巻ニアル趣キハ小人中間ニモ一入念
ヲ入召仕ハルヽ支廿人衆同事ニ其外小人中
間衆ヲ横目トシテ走廻リアリ先キニ指越玉ヘ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ハ似合敷働ヲナシ放討ノ成敗者等ヲナシテ武
辺ヲ童子後ハ則知行ヲ給リ小人頭ト成テ馬ニ
乗横目ヲ勤メ小人中間ヲ扶持十人或ハ甲府御館ノ大手ノ番屋ニ一日一夜一組三十人充
番ヲ勤メ或ハ甲州口々筋々ノ奉行ヲ兼テ勤メメ
リトヤ云ヘル又太郎兵衛信ノ逆心ノトキ御守ノ曽根周
防ヲ御中間頭ノ荻原豊前ニ仰付ラレ放シ討ニ
討トアリ如此ノ働キ多シトヤ云ヘル戦国ニテノ様子ヲ知
リ當時治国ノ心得アルヘキ事ニ支ン

附リ

小人中間モ不多ク共畢竟心好ノ者
前ニモ云通リ備定之巻ニ中間頭一人ニ小人中間
御道具衆共ニ三十人宛預ルトアレハ合テ三百人
シ考ルニ右三百人ノ内御道具衆三十五人ハ御中間
頭衆ニモ劣ラヌ者ヲナサルヽ心ハ剛強ニテモ御心安
キ者ニテ無之ハナサレス御譜代ノ中間小人ノ中ニ
テモ御道具衆ヲハ一入スクリテ当モ如此トアリ
然レハ前ニ云所ノ小人中間ハ横目トシテ御先キエ
遣ハサルヽト云者モ三百人ナカラ皆横目トヤニハ有
ヘカラス其内小人ニテモ中間ニテモ人柄ニ依テ横

目ヲ勤ル者ハアルヘキ（ニ）御道具衆ト云ハ又其内
ヨリ撰テ勤メシムルトイフトモ
ニナルヘキ人柄ト小人中間ノ横
又別ナル所アルヘキ（ニ）前章ニ云ヤ人衆ヲ付ラルル
ルトカモ此心ナルヘシ通考スル所ヲ以テ書之又新品寒
到来ニ御大将ノ御中間衆使番ノ馬ヲ取ハ先衆ノ
様子勝負善悪ヲ御大将ヘ早ノ申上ヘキメシ急
ナラハ使番馬上ニテモ申上ヘキ（ニ）其動兵衛能聞覚
候大坂御陣七日ノ御一戦ニ権現様御使番ノ横
田甚右衛門先衆ヘ御使ニ参リ戻ルニ急ノ故我中

間不着御中間衆ニ馬取ト申候ト云ヘ遅ノ立寄
候ヲ大キニ御詞ラ被成候同日ノ朝安藤帯刀御
召ノ茶碗ニテ御茶ヲ無理ニ取給候時モ坊主遅ノ
出スヲ御詞リ候使衆待大将物頭衆馬上ニテ御大
将ヘ申支ハ永禄十二年霜月駿河薄原ノ城北條
新三命三千ノ人数ニテ篭居ルニ前日辨才ノ行ヲ
以テ引下シ不上ノ様ノ計ト急ナル故如斯付武田
信玄公吹上六本松ニテ床机ニ腰ヲ掛座備ノ時右ノ
通シトアリ然レハ御使番等ノ馬ノ口取支アル
ヘシ早ノ出合様ニ有ヘキ支度ヲ惣テ大将ヘ馬上ヨリ

物ヲ申支ハ戦場ノ定法ナレ𠮟自然様子ニヨリ
下馬スヘキトテ遅クテハイカヽト如此シ是ハ考ルニ
中間衆ヲ馬ノ口ヲ早クトレトゝ教ユルノ所ナレハ
景憲ノ了簡ニ馬上ヨリ直ニ申支ハ稀ナリト教
ユルノ心ナルヘシ惣シテ如此品々ヲ知テ當時治世ト
ゝモ通利ヲ推テ知ヘキシ又数多ノ中間ニ到テ
不残其心ヲ知支カメカルヘケレモ其内ニ又支々
ノ小頭等ヲ定メテヨリ其情ヲ觀察スヘキ支

第七

一怪き者の取畢竟心ヲ
前ニ委ク述ル通リ其品區々ナル支トイヘトモ
畢竟ハ制法ヲ以テ形儀ヲ正シ武功ヲ教ユテ其
情ノ真實ヲ知御大将ノ近仕ナセシムル支廿人
衆小人中間ニハ限ルヘカラストイヘモ此等ハ
黨羽ニ是ニ類スルノ輩皆同理シ治国トゝテ
モ同シ支シ其同輩ニヨラシメテ勤ムル所ニ功ア
ル者ヲ称シ級ヲ改ムルニアラスハ怪キ者ハ猶更
進ミヨル所薄カルヘキ欤故ニ名将ハ其黨ノ似
タル内ニモ段々ノ階級ヲ立テ撰テ称セラルヽニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

到ルト見エタリ故ニ其頭ノ心得アシクハ或ハ黨ヲ組テ恨ヲ起シ或ハ実ヲ尽スヲ不知カ如クニテハ頭タル人ノ油断ニテ常ノ心付不足故乎真間ニ立チ冝キヲ尽ス(キシ)怪キ者トイヘ𪜈御大将ノ御身近キ勤ヲナス者ノ頭タル者真實ノ心ヲ指置私ノ宿意等ニテ下ノ忠節忠功ノ志シヲ覆フカ如クニテハ必ス其頭ヲ恨ムルト思フ内ニ忠情モ薄クナルニ到ルヘキハ小人ノ意ナル(ヘシ)故ニヨリ我心ヲ吟味シテ抑揚褒貶ハ時々ニ用ルノ心得アルヘシ縦令奪ハ上達ノ心持ヲ忘ル(カラサル)ヲ本意トスヘキ支配

附リ

扨キ者ソレ立身ヲ欲セハ一ノ敵ヲ討取ヲ以テ武徒ノ風トナリ此ヲ以テ我勲功ヲ顕ハシ名ヲ後世ニ残ス事ナリ(ト雖モ)

甲陽ニ於テ二十人衆小人中間等皆立身シテ其頭ト成トアリ其中ニモ備定之巻合戦之巻二之下等ニ玄米倉毋後守其初メハ二十人衆ナレ𪜈鑓ヲ十三度合セ其外首数多キ中ニ手柄ノ高名ハアリ其上敵味方ノ強弱ヲ見計ヒ勝負ノ

勘ヲ信玄公若ク マシマス時命ヨリ申上ルニサノミ
不違左アル故廿人衆頭ニ成テ後ニハ弥弓箭ニ
ハゲミアリテ武辺ノ覚アル故米念惣領ノ名
跡ヲ下サレ其利左衛門衆同心頭ニ仰付ラレ猶数
度戦功アル旁奉公クハ軍鑑ニアリ今ニ其子孫郡
主ト成テ後栄ヲナス所ニ又勝頼之記下ニ天正
十年三月十日ニ勝頼公甲列田野ニテ御生害
ノ御供四十四人ノ内ニ御庭鳥匠ニテハ斧藤作蔵
山名源蔵御歩衆ニテ山下木工助皆井小助抜来
新蔵トアリ然レハ武名ヲ顕ル後代ニ其名ヲ止
ル旁ハ貴賤ニ不限其余猶多アルベシ唯其一二ヲ以
テ爰ニ出スナリ又合戦之巻二之上ニ天文十四年ニ
甲列一蓮寺トヲ時宗寺ニテ瀬場入道成敗ノト
キ典厩ト其利左衛門両侍大将ニ仰付ラルニ瀬場
小身ニトイヘ共大剛ノ者其上信列弓箭強キ旁
大形ナラサルニ付悴者中間ニテ武勇ヲ嗜ミ逃散
者サノミ無之雑兵共ニ二百十三人瀬場殿ト一所
ニ伐死スル典厩衆其利衆ニモ手負アリトヲヲ旁ヲ
以テ小者中間トイヘ共其勇アル旁ヲ知ヘキ是
併ラ其風ニ馴ル所アルヘキナレハ兼テ其頭タル

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

者ハ案ス（キ着乎猶ゑトキハ其名高キ者アリ
新品前集ニ原美濃中間ホツセン小幡山城中間
藤右衛門鳥井金次帝中間助八等ハカタノ如ク
働キアル者トゑゑ又　信長公ノ中間ガニテリ一若
等モ名高キ者ニ古ヲ義経公ノ下ニ鬼三大ト
ゑ者モ怪卒メリト普通ノ知タル支ニ近クハ賀
府ニテ篠原出羽守モ　利家公御ノ社立ノ怪
キ者ニテ　勘六トゑシトゑ傳フヲ又猶近クハ渡辺七左
衛門トゑ者ハ横山左衛門家中ニテ怪卒メリシニ
我家ニ強盗十余人入タルヲ残リ少ナク切殺シ

其身ハ深キヲ厭ナカラ能働キメルヲ以テ直参
ニ召出シモニ知行ヲ給リ今ニ子孫ヲ残ス皆武
ニノ志シ達シメルヲ以テシ其余怪キ者トテモ
志シト行トニ依テ立身スル支戦国治国トモニ
其例多シ増田右衛門モ初メハ御臺所ノ帳付
役ナリシニ　秀吉公ノ御右筆不有合トキ何
者ニテモ物書者有合サハ呼ヘト有テ初メテ御
前ヲ出ル其利発才覚ナルヲ見ヒテ称用セラ
レ後ハ五奉行ノ一人ニテ成タルシ小西摂津守モ
其初メハ怪キ境ノ薬種屋ノ町人ニ猶　秀吉公

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ素生モ是レ今ヲ所ハ其内ヲ透逸ナル者ヲヨ
是程迄ニコソハナケレ知行ヲ取程ニ立身スル者ハ
治国ニモ猶多シ故ニ粗卒トヲヨヒ志ヲ捨ヘカラ
サルノ理ヲ知テ真實ニ忠節ヲ盡ス如クニ推
挙スヘキ支ナルヘキ欤

右徒頭中間頭ノ様子ハ準拠トスヘキ者殊ニ
少ナシ只甲別流ノ趣キヲ以テ推テ其類ヲ
寄テ七章トシ附章十八箇合テ廿五ノ条
目トシテ自註ヲ加フ猶此役ニ於テ甲別流ハ
目付横目ヲ兼ルニヨリ其支ハ別巻ニ述ル故ニ
兩様相通ルモノ互ニ有之分明ナラサル所々ハ
通考シテ更ニ知ヘシ殊ニ此徒頭中間ノ類甲別
流ハヨリ本役兼役ノ差別明白シトイヘ共當
時江戸ヲ始メ諸家ニ於テ相勤ル所不分明シ
テ其的當ノ理ヲ明辨シ難シトイヘ共兵ノ余

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

カヲ以テ次々論之又軽キ者ヲ推挙セラレテ
立身ヲナス支ハ此黨ハカリニ不限足軽ニテモ
相通スルノ処アリ武家ニ於テ貴賤ニハヨラヌ
支ヒ其志ヲ顕シ名ヲ後世ニ残ス処ヲ思フハ
主将士其下ノ歩卒軽卒ヒニ同理ナルヘキカト云
尓

千時享保二丁酉年 四月十六日始筆ストイヘ
ヒ折カラ此次ノ書ヲナスノ通考ノタメ軍鑑其
外諸書多ク電覧数回ニ及フニ隙ヲサエラレ
同北一日 不快ニシテ情カヲ盡スヲ厭フノ心有
テ養生ノタメ又此巻ノ筆ヲ採テ廿二日 薄
暮ニ到テ草稿終之者ヒ

有澤武貞

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

右徒頭中間頭ノ一巻ハ享保六辛丑年正月
廿六日始筆廿八日廿九日二月二日三日ニ中書
シ畢ル着ク早ク成ヘキノ所正月廿八廿九ノ両日
近年ニシナキ雪積ル支三尺餘寒サ立帰
テ硯氷ヲ生シ筆ホコシテ手モ動カシ難キニ依テ
心ニマカセス今年ノ如キ春寒ノ甚シキ変モ
珎敷ニ依テ後来ノ心覚ニ爰ニ記之今日三日ニ
到リテ少シ寒サ和ラクニヨリテ終之
同三日朱点成

賀列金澤乾隅堀川於栖老亭作之
習軒有澤平武負字伯趙森水子再書終

848
189

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用